

「様子を思い浮かべて吹こう ～『かえるの合唱』『かっこう』～」(第2学年)

(1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【題材で育成したい「思考力」】

『かえるの合唱』や『かっこう』の歌詞や曲想からその情景を想像し、演奏するときの強弱や速度、リズム等の変化を自分の思いをもって創意工夫する力

『かえるの合唱』や『かっこう』の情景を鍵盤ハーモニカの演奏で表すことに興味をもち、さまざまな吹き方を試したり、互いに聴き合って感じたことを伝え合ったりすることで、より自分の思いに合う演奏に近づくように練習を繰り返し、楽器や曲を変えて試そうとしている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本題材では、『かえるの合唱』や『かっこう』の歌詞や曲想から、かえるやかっこうの鳴いている情景を思い浮かべ、強弱や速度、リズム等をさまざまに変化させながら、自分の思いに合うように鍵盤ハーモニカでの演奏を工夫していく。例えば『かえるの合唱』を聴いて、「ケロケロ」という歌詞から元気なかえるを想像し、鍵盤ハーモニカで「強く吹こう。弾んで吹くと、もっと元気なかえるが表せそうだな」や、『かっこう』を聴いて、森の中で鳴いている優しいかっこうを想像し、「弱くゆっくり吹いてみよう。高い音で吹くのもいいな」と工夫するのである。

本題材において、子どもたちは、鍵盤ハーモニカを演奏する際に、強弱や、速度、リズム等を変化させることで、情景が変化することに気付く。そこにおもしろさを感じ、「自分も変化させて吹いてみたい」と、演奏で情景を表すことに興味をもつ。そして、自分の思いに合うように強弱等を変化させる楽しさを感じながら、さまざまな吹き方を試していこう。さまざまな吹き方を試し、自分の思いを演奏で表せたと感じた子どもは「聴いてほしい」、どう表すか迷っている子どもは、「友達はどうのように表すのかな。聴いてみたい」と考え始めるだろう。そこで、表すかえるの情景を相手に伝えてから互いに演奏を聴き合い、感じたことを伝え合う場を設ける。そうすることで、より自分の思いに合う演奏に近づくように強弱や速度、リズム等を工夫していこう。また、『かえるの合唱』での学びを生かして『かっこう』の曲を変化させたり、「違う楽器や曲でも、いろいろに変化させて演奏してみたいな」等と自分からさまざまな曲の演奏に生かしたりしていく。このような姿が、学びに熱中している姿である。

(2) 新たな問題を共有する場を位置づけた題材構成について(新たな問題は二重下線部分)

【自信度を高める題材構成】

演奏の難易度を変化させた課題解決の場を複数回用意し、思い浮かべた情景を表せたという成功体験を積み重ねられるようにすることで、自信度を高める。

事前の質問紙調査では、35名中32名が音楽が好きと回答しており、意欲的に活動に取り組んでいる。しかし、情景に合わせた演奏ができるかと回答したのは13名であり、どのように演奏すればよいのか自信がもてない様相が見られた。このような子どもたちは、従来教材で扱っている『かえるの合唱』を演奏し、カノン形式で音を重ねた後、「自分の思い浮かべたかえるを、どうやって表したらよいのだろう」という課題をもつことが予想された。

そこで、まず、『かえるの合唱』を歌い、鍵盤ハーモニカで吹く練習を繰り返し行い、基礎的な演奏技能を身につけさせ、演奏技能への自信度を高めた。次に、「どんなかえるが鳴いているの」と問いか

け、さまざまなかえるを思い浮かべさせた。どのように吹けばよいか迷っている子どもたちも安心して取り組めるように、これまでの歌唱や演奏で学んできた強弱と速度を変化させて表す場を設定した。その後、「スキップしているかえる」のように、強弱や速度では表しにくい情景を取り上げ、あまり変化させた経験のないリズムをさまざまに変化させて表す場を設定した。このように難易度を徐々に上げながら情景を表す場を設定することで、思い浮かべた情景を表すためには、強弱や速度、リズム等を変えて演奏すればよさそうだ、という見通しをもつことができた。このようにして成功体験を積み重ね、自信をもった子どもたちは「友達の工夫した『かえるの合唱』を吹いてみたい」「いろいろな友達の演奏を聴きたい」と新たな問題を表出した。出てきた問題を全体で共有し、課題を解決して自信度を高め、学んだ表し方を『かっこう』の演奏にも生かしていった。

(3) 題材計画と学習意欲への働きかけ (総時数 7時間)

次	主な子どもの意識および学習の流れ	学習意欲への働きかけ
第 一 次	<p>① 『かえるの合唱』を歌ったり、吹いたりしよう 『かえるの合唱』を歌い、階名唱した後、鍵盤ハーモニカで演奏する活動に取り組んだ。「どんなかえるが鳴いているの」と問うことで、歌詞や曲想から具体的なかえるを思い浮かべ、演奏に生かしたいという思いを高めた。</p> <p>② いろいろな『かえるの合唱』を吹こう (パート1) 強弱と速度を変化させて、かえるの情景を表して演奏した。演奏技能を高めるため、強弱、速度の順に変化させる。互いの演奏を聴き合った。</p> <p>③ いろいろな『かえるの合唱』を吹こう (パート2) リズムをさまざまに変化させ、かえるの情景を表して演奏するために、鑑賞教材から感じ取ったことを想起した。演奏技能を高めるために2小節を交互に吹き、技能を高めた後リズムを変えて演奏し、互いの演奏を聴き合った。</p> <p>④ 自分の『かえるの合唱』を工夫しよう (本時4/7)</p>	<p>②～④目【かえ～るボックス】 ブラックボックスにかえ～るカードを入れると強弱等が変化して聴こえる教具を活用し、変化の効果に興味をもたせ、自分の演奏に生かせそうだという見通しをもたせた。</p> <p>②～⑤関【かえ～るカード】 表にかえるのイラストを、裏に強弱等を書き込んだカードを作成し、友達に分かるように、そのカードを入れたネームプレートを首から下げて交流することで、友達と自分の演奏の異同に気付けるようにした。</p> <p>②～⑦関【かえるフォルダ】 友達と交換したかえ～るカードを、クリアフォルダに入れて残すことで、変化の異同に気付いたり、さまざまな情景を表す際のヒントにしたりできるようにした。</p>
	<p>思い浮かべたかえるの情景を表すために強弱や速度、リズム等を変化させて演奏した。そして「友達の工夫した『かえるの合唱』を吹いてみたい」「いろいろな友達の演奏を聴きたい」等の新たな問題を共有した。</p> <p>⑤ 『かえるの合唱』演奏会』をしよう 自分の思い浮かべたかえるの情景に近づけたいと工夫を加えたり、もっと情景が伝わるようにと練習を繰り返して演奏技能を高めたりした。そして、それぞれが思い浮かべたかえるの情景を表した『かえるの合唱』を演奏して聴き合った。</p>	<p>..... 振り返り</p>
	<p>⑥ 『かっこう』を歌ったり、吹いたりしよう</p> <p>⑦ 自分の『かっこう』を吹こう 『かえるの合唱』で学んだことを生かして、『かっこう』の歌詞や曲想から思い浮かべた情景を、強弱等を変化させて鍵盤ハーモニカで演奏した。</p> <p><評>『かえるの合唱』や『かっこう』を、自分の思い浮かべた情景に合うように、強弱や速度、リズム等を変化させている。</p>	<p>①～⑦【ふりかえるカード】 授業の最後に、「ふりかえるカード」に、自分のがんばりや、次にしてみたいことを書いたり、「かえるフォルダ」を見返して友達と協働したよさを実感したりできるようにした。</p>
第 二 次		

(4) 学習意欲への働きかけと子どもの姿

① 新たな問題を共有するまでに (1～3時間目)

1時間目は、『かえるの合唱』を歌い、鍵盤ハーモニカで繰り返し練習する時間を設定することで、基礎的な技能を身につけさせ、友達の前でも自信をもって演奏できるようにした。次に、歌詞や曲想からどんなかえるが鳴いているのか、想像を膨らませる活動を行った。そして、思い浮かべたかえるの情景を鍵盤ハーモニカでどのように演奏すればよいのかという思いを高め、次時から「いろいろな『かえるの合唱』を吹こう」という課題に取り組んでいくことを共通理解した。

2時間目は、まず、強弱を変化させてかえるの情景を表す活動を行った。その際、演奏技能が十分でないために思うように演奏できず、思い浮かべた情景が表されないことが予想されたため、強弱を変化させた演奏を聴く機会を設け、演奏に生かせそうだという見通しをもたせた。【かえ～るボックス (自信度)】そして、実際に自分でも演奏してみても変化の効果を確かめる時間を設定した。同様に、速度を変化させてかえるの情景を表す活動を行うことで、演奏で表せるという自信をもたせ、友達と演奏を聴き合う時間を設定した。交流では、表にかえるの様子が分かるイラストを、裏に強弱等の工夫を



【かえ～るボックス】 【ICTの活用】



【かえ～るカード】

書き込んだカードを、友達に分かるようにネームプレートに入れて首から下げて演奏し合うことで、友達と自分の工夫の異同に気付けるようにした。【かえ～るカード (関心度)】また、交流の後、かえ～るカードを、クリアフォルダに入れていつでも見返すことができるようにすることで、変化の異同に気付いたり、さまざまな情景を表す際のヒントにしたりできるようにした。【かえるフォルダ (関心度)】



【かえるフォルダ】

3時間目は、あまり変化させた経験のないリズムをさまざまに変化させる場を設定した。その際、鑑賞の学習で学んできた、リズムによる情景の変化を想起させ、「楽しい」や「力強い」といった情景を表すためには、どのようなリズムで演奏すればよいのか見通しをもてるようにした。次に、強弱や速度を変化させたときと同様に、かえ～るボックスを使った後、変化の効果を確認した。そして、フレーズを区切りながら繰り返し練習をして、自信をもって演奏できるようにした。その後、2時間目と同様に、友達と交流する時間をとることで、子どもたちは、思い浮かべた情景に合うようにリズムを変化させて演奏する楽しさを味わうことができた。



【鑑賞での学びを想起する】

② 新たな問題を共有する (4時間目)

4時間目は、子どもたちが第1時で思い浮かべたかえるの情景に合うように、「自分の『かえるの合唱』を工夫しよう」という課題を設定した。まず、かえ～るボックスで強弱や速度、リズムを変化させた演奏を聴き、変化の効果を想起させた。次に、全員で強弱や速度、リズムを変化させて鍵盤ハーモニカで演奏し、基礎的な技能が身につけていることを称賛して自信をもたせ、自分の演奏に生かせそうだという見通しをもたせた。子どもたちは、「怒っているかえる」や「雨の中で遊んでいるかえる」等、思い浮かべたかえるの情景に合うように強弱等をさまざまに変化させて演奏を工夫していった。そして、考えた工夫を書き込んだかえ～るカードをペアの友達に見せて、演奏を聴き合う活動を行った。その際の様子は、次の通りである。

子どもの姿

- C1：怒っているかえるです。強さは2で、速さは2です。（演奏する）
C2：怒っているから、3の強さになるように強く吹くといいと思うよ。
（別のペアと演奏を聴き合う）
C3：雨の中で踊っているかえるを表します。強さは2，速さは3，リズムはタッカで高い音と低い音で吹きます。（演奏する）
C2：高い音と低い音が混ざったかえるにしたんだね。僕もやってみよう。



また、授業の最後に振り返りの時間を設け、自分のがんばりや、次にしてみたいこと、がんばっていた友達の名前を書き、全体の場で共有した。【ふりかえるカード】振り返りをする中で、「友達の工夫した『かえるの合唱』を吹いてみたい」「いろいろな友達の演奏を聴きたい」「もっとリズム等を変えて演奏したい」と新たな問題が表出された。中でも「いろいろな友達の演奏を聴きたい」「もっといろいろに変えて演奏したい」という思いが多かったので、互いの演奏を聴き合い、自分の演奏に生かすために、次時の課題「『かえるの合唱』演奏会をしよう」を設定した。

③ 設定した課題の解決に向かう（5～7時間目）

5時間目は、まず、自由にペアになり、互いの演奏を聴き合った。十分に友達と交流した後、子どもたちから「もっと様子を表すために友達と合わせて演奏したい」という意見が出た。そこで、同じ情景を思い浮かべている友達とグループになって強弱等を工夫する時間を設定した。協力しながら工夫を考える中で、これまでの学びを生かして主体的に話し合いながら解決に向かう子どもの姿が見られた。

子どもの姿（5時間目）

- T：グループで、思い浮かべた『かえるの合唱』を工夫しましょう。
C4（思考力低位群）：雨の中で踊っているかえるだから、強さを1で、速さを2にしようよ。
C5：いいね。一緒に吹いてみよう。（演奏する）
C5：こんな感じでいいかな。2人で踊っているから、リズムをタタにして吹いてみようか。
C4（思考力低位群）：そうだね。楽しそうな感じがしそうだね。（演奏する）
C5：楽しそうに踊っている感じになったね。おもしろい。
C4（思考力低位群）：私が跳ねるように吹いて、C5さんが優しく吹いてみたらどうかな。



C4の子どもは、上手に演奏することに固執しがちだったが、ペアで問題を解決する中で、情景に合うように強弱等を工夫することができた。後の振り返りでは、「友達と一緒に考えて、楽しく踊っているかえるが表せた」と、友達と協力することのよさについて振り返ることができた。

（5）考察

本実践では、思い浮かべた情景に合うように工夫を考えたり友達と演奏を聴き合ったりする中で、さまざまな変化の効果に気付いて自分の演奏に生かそうとする姿が見られるようになり、「思考力」が育成されていったと考える。また、鍵盤ハーモニカの演奏にとどまらず、「かえるの様子を歌って表したい」といったように、器楽から歌唱へと関心を高めていく子どもの姿も見られた。

ただ、協働の場面において演奏の聴き合いで終わってしまう姿が見られた。音を介したコミュニケーションを充実させるために、音とことばをつなぎながら、よりよく演奏するためのアドバイスを伝えられるようにしていくことが今後の課題である。